



2021年8月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年10月8日 東

上場会社名 株式会社メディア工房 上場取引所
 コード番号 3815 URL http://www.mkb.ne.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)長沢 一男
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)長沢 和宙 (TEL) 03-5549-1804
 定時株主総会開催予定日 2021年11月22日 配当支払開始予定日 —
 有価証券報告書提出予定日 2021年11月22日
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年8月期の連結業績(2020年9月1日~2021年8月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期	1,929	7.3	47	—	38	—	7	—
2020年8月期	1,798	△7.5	△9	—	△18	—	△149	—
(注) 包括利益	2021年8月期		11百万円(—%)		2020年8月期		△150百万円(—%)	

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益	自己資本当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2021年8月期	0.71	—	0.6	1.2	2.5
2020年8月期	△14.83	—	△11.8	△0.6	△0.5

(参考) 持分法投資損益 2021年8月期 -100万円 2020年8月期 -100万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年8月期	3,119	1,200	38.5	119.16
2020年8月期	3,228	1,189	36.9	118.05

(参考) 自己資本 2021年8月期 1,200百万円 2020年8月期 1,189百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2021年8月期	148	△68	△172	2,408
2020年8月期	56	△166	307	2,500

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額(合計)	配当性向(連結)	純資産配当率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2020年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2021年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2022年8月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題のひとつと考え、内部留保の充実及び事業投資並びに各期の経営成績等を総合的に考慮し、配当を行うことを基本方針としております。しかしながら当連結会計年度におきましては、利益剰余金の状況を勘案し、配当に関しては見送らせていただくことと致しました。次期以降、早期復配できるようこれまで以上に各事業に注力し、株主の皆様のご期待に沿うよう努力する所存であります。また、次期の配当につきましては、原則配当性向25%~35%を目処とした事業経営を行ってまいります。新規事業の動向における不確定要素が多いため、配当予想を見送ることとしております。

3. 2022年8月期の連結業績予想(2021年9月1日~2022年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	2,350	21.8	90	89.1	80	106.0	50	595.8	4.96

※ 2022年8月期の通期業績見通しは、各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。



※ 注記事項

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年8月期	11,300,000株	2020年8月期	11,300,000株
② 期末自己株式数	2021年8月期	1,221,077株	2020年8月期	1,221,077株
③ 期中平均株式数	2021年8月期	10,078,923株	2020年8月期	10,078,923株

(参考) 個別業績の概要

1. 2021年8月期の個別業績（2020年9月1日～2021年8月31日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期	1,851	10.1	24	△22.5	16	△42.0	△10	—
2020年8月期	1,681	1.0	31	△61.0	29	△67.6	△217	—
	1株当たり 当期純利益		潜在株式調整後 1株当たり当期純利益					
	円 銭		円 銭					
2021年8月期	△1.07		—					
2020年8月期	△21.54		—					

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
2021年8月期	3,073	1,169	1,169	1,169	38.0	116.03	116.03	
2020年8月期	3,209	1,180	1,180	1,180	36.8	117.09	117.09	

(参考) 自己資本 2021年8月期 1,169百万円 2020年8月期 1,180百万円

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 本資料に掲載される業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績のご利用に当たっての注意事項等に関しては、添付資料「1. 経営成績・財務状態に関する分析」をご覧ください。

2. 当社は、2021年10月22日（金）に証券アナリスト、機関投資家向けに説明会を開催する予定です。この説明会資料は、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当期の経営成績の概況	2
(2) 当期の財政状態の概況	3
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況	4
(4) 今後の見通し	4
(5) 継続企業の前提に関する重要事象等	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方	5
3. 連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 連結貸借対照表	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書	8
(3) 連結株主資本等変動計算書	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書	11
(5) 連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(セグメント情報等)	12
(1株当たり情報)	13
(重要な後発事象)	13

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、長期化する新型コロナウイルス感染症の蔓延を背景に、行政の要請に基づく外出自粛や休業が影響し、雇用、所得環境は厳しい状況となりました。ワクチン接種の拡大により一部欧米諸国においては景況感が好調の兆しを見せましたが、我が国を含むアジア諸国においては、未だ感染収束の見通しは立っておらず、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような情勢の中、当社グループは、既存事業の収益モデル再構築にあたり、占いコンテンツ事業とメディア事業を統合、新たにデジタルコンテンツ事業へとセグメントを変更し、既存コンテンツの運用強化による収益増及びヒットコンテンツを創出するための体制変更を進めてまいりました。ゲームコンテンツ事業からの実質撤退(※1)による減少要因はありましたが、One to One 事業の安定成長に加え、著名占い師を起用した新規コンテンツのヒットと運用強化が奏功し、売上高は前年同期比で増加いたしました。利益面においては、新規ユーザー獲得に向けた積極的な広告宣伝と、XR/SNS 事業のシステム開発に係るソフトウェアの償却費負担の先行が利益を押下げる要因となりましたが、売上高の増加に伴う利益増により予測を上振れて着地いたしました。

なお、当連結会計年度においては、上海子会社の清算に伴う為替換算調整勘定の取崩しによる損失3百万円、越境eコマースシステム及びXR/SNS事業に係るソフトウェア等の減損損失34百万円を特別損失として計上しております。特別損失に関する詳細は、セグメントごとの経営成績にて記載しております。

以上の結果、当社グループの当連結会計年度の経営成績は、売上高1,929百万円(前年同期比7.3%増)、営業利益47百万円(前年同期は営業損失9百万円)、経常利益38百万円(前年同期は経常損失18百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益7百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失149百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、以下のとおりであります。

① デジタルコンテンツ事業

デジタルコンテンツ事業においては、自社Webサイト、ISP(※2)、各移動体通信事業者及びApple や Google 等のプラットフォーム向けに占い鑑定や女性に向けた記事コンテンツを企画・制作・配信する、1対N向けのサービスを行っております。当連結会計年度においては、他社に依存しない収益モデルの構築を目指して占いコンテンツ事業とメディア事業を統合し、新規コンテンツの制作及び既存コンテンツの運用強化並びに自社メディアの構築を図ってまいりました。

著名かつ訴求力のある占い師の獲得を強化した結果、第3四半期以降、「霊視芸人・シークエンスはやとも」のコンテンツを筆頭にヒットコンテンツが生まれ、売上高は、前年同期比で増加いたしました。また、自社Webサイトの運営においては、新型コロナウイルス感染症の長期化により広告出稿が減少する中、サイト内における課金コンテンツの充実や自社コンテンツへの送客に注力したことが奏功いたしました。一方、営業利益においては、積極的な広告宣伝と、ポイントシステム等に係るシステムの減価償却が影響し、前年同期で減少しております。

以上の結果、当連結会計年度におけるデジタルコンテンツ事業の売上高は1,166百万円(前年同期比5.1%増)、営業利益388百万円(前年同期比2.0%減)となりました。

② One to One 事業

One to One 事業においては、ユーザーと占い師をはじめとするキャストを電話等で直接結び付ける、双方向のやり取りを特徴とした1対1向けのサービスを行っており、サービスの内容は「占い」と「非占い」の二つに分類されております。売上については、「占い」「非占い」とともに増加しており、特に占いサービスが安定的に成長いたしました。非占いは新規ユーザー獲得のための広告宣伝が先行費用となり損失を計上しておりますが、事業全体の営業利益は継続して増加しております。

以上の結果、当連結会計年度におけるOne to One 事業の売上高は728百万円(前年同期比17.1%増)、営業利益89百万円(前年同期比41.8%増)となりました。

③ XR/SNS 事業

XR/SNS 事業においては、リアルタイム実写立体動画撮影技術を活用したサービスの企画・制作並びに多機能コミュニケーションプラットフォームの開発・運営及びサービス支援を行っております。当連結会計年度においては、多機能コミュニケーションプラットフォームのシステム利用料が主な収益となり、売上高は前年同期比で増加いたしました。なお、利益面については、当該プラットフォームの改修及び追加開発等により、営業損失を計上しております。

以上の結果、当連結会計年度におけるXR/SNS 事業の売上高は22百万円(前年同期は売上高0百万円)、営業損失92百万円(前年同期は営業損失38百万円)となりました。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行とその長期化によりリアルタイム実写立体動画撮影が困難となり、受託案件の獲得に影響が生じ、当該立体動画撮影システムによる収益寄与が当初計画に対し遅れております。そのため、当該システム及びこれに関連する特許、商標等に関する減損損失30百万円を特別損失として計上しております。当社グループといたしましては、引き続きXR事業の推進に努める所存であり、本事業における多角的な利益貢献は、来期以降を見込んでおります。

④ その他の事業

当連結会計年度における新規事業は、新型コロナウイルス感染症の流行によりインバウンド・アウトバウンド事業環境に回復の兆しが見えない中、サプリメントの国内販売が主な内容となっておりますが、売上が僅少に留まっております。前連結会計年度における新規事業の見直しにより前年同期比で縮小しましたが、営業損失を計上しております。

以上の結果、当連結会計年度におけるその他の事業の売上高は11百万円(前年同期比82.4%減)、営業損失46百万円(前年同期は営業損失53百万円)となりました。

なお、越境eコマース及び医療ツーリズム事業を中心とする、インバウンド・アウトバウンド事業については、事業環境回復時期の見込みがたたず、当連結会計年度をもって撤退せざるを得ないと判断し、越境eコマースのシステムに係る減損損失4百万円を特別損失として計上しております。

※1. 当社グループは、2020年8月期にほぼ全てのゲームコンテンツ事業について減損損失を計上し、当該事業について実質的に撤退しておりますが、一部コンテンツについては運営を継続しており、当該事業については、上記のセグメントに属さず、「その他」セグメントとして区分しております。

※2. ISP : Internet Service Provider 電気通信事業者

※3. 文中の将来に関する事項は、当連結会計年度の末日現在において判断したものであります。

(2) 当期の財政状態の概況

① 資本の財源及び資金の流動性にかかる情報

当社グループの事業活動における主な運転資金需要は、各事業の事業規模拡大や新規事業推進に伴う運転資本及びシステム開発費の増加等であります。

当社グループは、内部資金の活用及び金融機関からの借入により資金調達を行っており、これらの事業活動に必要な資金の安定的な確保に努めております。資金調達においては、当社は、金融機関に十分な借入枠を有しており、市場環境を勘案し、慎重な判断のもと借入を行っております。一方で内部資金についてはこれまでの利益剰余金の積み重ねにより高水準を維持している現預金を活用しており、各種事業への機動的な投資の実行を可能にするとともに、自己資本比率をはじめとする各指標のもと、資金効率の向上に努めております。

② 財政状況

当連結会計年度の当社グループの財政状況は以下のとおりです。

(資産の状況)

当連結会計年度の資産合計は、前連結会計年度末と比較して108百万円減少し、3,119百万円となりました。

これは主に、現金及び預金の減少92百万円によるものです。

資産の内訳は、流動資産2,820百万円、有形固定資産17百万円、無形固定資産100百万円及び投資その他の資産180百万円となっております。

(負債の状況)

当連結会計年度の負債合計は、前連結会計年度末と比較して119百万円減少し、1,918百万円となりました。

これは主に、1年内返済予定の長期借入金の減少30百万円及び長期借入金の減少142百万円によるものです。

負債の内訳は、流動負債1,197百万円、固定負債721百万円となっております。

(純資産の状況)

当連結会計年度の純資産合計は、前連結会計年度末と比較して11百万円増加し、1,200百万円となりました。

これは主に、利益剰余金の増加7百万円によるものです。

(3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比較して92百万円減少し、2,408百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は、148百万円(前連結会計年度は56百万円の増加)となりました。

主な増減要因は税金等調整前当期純利益1百万円及び減価償却費113百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金の額は、68百万円(前連結会計年度は166百万円の減少)となりました。

主な増減要因は、無形固定資産の取得による支出66百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は、172百万円(前連結会計年度は307百万円の増加)となりました。

主な増減要因は、長期借入金の借入による収入900百万円及び長期借入金の返済による支出1,072百万円でありませ

(4) 今後の見通し

当社グループは、デジタルコンテンツ事業及びOne to One 事業を中心として安定的かつ長期的な収益を確保すると同時に、今後収益の拡大が見込めない事業分野からは撤退し、成長事業に積極的かつ継続的な投資を行うことで新たな収益の柱を育成し経営の多角化を推進いたします。

また、こうした事業内容の精査の結果、新型コロナウイルス感染症収束の見通しが難しい中、越境eコマース及び医療ツーリズム事業を中心とするインバウンド・アウトバウンド事業については、当面、事業成長が厳しい見込みであると判断し、当連結会計年度をもって撤退することを決定いたしました。そのため、2022年8月期においては、下記4つの事業に経営資源を集中し、業績及び時価総額の向上に努めてまいります。

また、財務面に関しましては、これまで同様、資産の透明性を確保し、新規事業への挑戦を安定した内部留保によって下支えする健全な経営を行う考えであります。

各事業別の見通しは以下のとおりです。なお、2022年8月期より、「XR/SNS事業」を「XR事業」及び「SNS事業」にセグメントの変更を検討しております。「XR事業」及び「SNS事業」については成長事業として積極的な投資を行い、SNS事業は2022年8月期、XR事業については2023年8月期以降の収益貢献を見込んでおります。

また、当該変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

■デジタルコンテンツ事業

著名占い師を監修者に迎えた新規コンテンツの制作強化及び運用効率化により、コンテンツあたりの売上利益の増加を図ってまいります。また、自社メディアの運営に関しましては、自社占いコンテンツへの送客の役割を強化すると同時に、自社メディア内における課金収入増を図ります。

■One to One 事業

占いサービスについては、引き続き電話による直接鑑定やサービス提供強化による安定的な利益確保に努めます。また、非占いサービスについては自社アプリの新規ユーザー獲得に注力するほか、配信プラットフォームを拡大し収益増を図ってまいります。

■XR事業

自社独自開発のリアルタイム実写立体動画撮影技術「SUPERTRACK」を活用した撮影サービス、コンテンツ制作の受託の他、他企業とのIPアライアンス等を推進してまいります。

■SNS事業

当社が開発する多機能的なWebコミュニケーションのためのソーシャルプラットフォーム（中期にはMR技術の活用を含む。）の運営及びサービス企画を行ってまいります。2022年8月期には自社によるSNSサービスを企画推進し、リリースする予定です。

なお、2022年8月期の通期業績見通しにつきましては、売上高2,350百万円、営業利益90百万円、経常利益80百万円、親会社株主に帰属する当期純利益50百万円を予測しております。これらの数値は、上記各事業の見通しに基づき予測する数値となっております。従って、新規事業の進捗に変更がある場合、利用ユーザー数が大幅に見込みを上回る若しくは下回る場合又は当社グループ事業に関連する法令が改正されあるいは情勢が変化した場合、変動する可能性があります。

また、新型コロナウイルスについては、いまだその感染拡大が続いており、当社事業に限らず今後の影響は不透明であると判断せざるを得ません。各事業の進捗並びに業績に与える影響を精査の上、当該連結業績予想に変更が生じた際は、速やかに訂正・開示いたします。

- ※1. 当社グループは、2020年8月期にほぼ全てのゲームコンテンツ事業について減損損失を計上し、当該事業について実質的に撤退しておりますが、一部コンテンツについては運営を継続しております。当該事業については、上記のセグメントに属さず、「その他」セグメントとして区分しております。
- ※2. 本記載内容につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。今後の展開には様々な不確定要素が内在しており、実際の進捗はこれらと異なる場合がありますので、本記載内容を全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えられますようお願いいたします。

(5) 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、連結財務諸表の期間比較可能性及び企業間の比較可能性等を考慮し、日本基準を適用しております。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢等を考慮のうえ、適切に対応していく方針であります。

3. 連結財務諸表及び主な注記

(1) 連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当連結会計年度 (2021年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,500,968	2,408,430
売掛金	288,025	362,235
商品	—	245
仕掛品	12,030	12,158
貯蔵品	349	335
未収還付法人税等	18,306	—
その他	55,323	38,020
貸倒引当金	△656	△1,353
流動資産合計	2,874,347	2,820,071
固定資産		
有形固定資産		
建物	45,830	45,318
減価償却累計額及び減損損失累計額	△37,013	△37,877
建物(純額)	8,816	7,440
工具、器具及び備品	95,454	84,607
減価償却累計額及び減損損失累計額	△82,946	△74,107
工具、器具及び備品(純額)	12,507	10,499
建設仮勘定	11,300	—
有形固定資産合計	32,625	17,940
無形固定資産		
ソフトウェア	89,007	100,332
ソフトウェア仮勘定	67,495	—
その他	1,273	630
無形固定資産合計	157,776	100,963
投資その他の資産		
投資有価証券	86	86
繰延税金資産	55,586	73,253
会員権	5,733	5,685
敷金及び保証金	101,510	101,410
その他	786	610
貸倒引当金	△235	△235
投資その他の資産合計	163,467	180,809
固定資産合計	353,868	299,712
資産合計	3,228,215	3,119,784

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当連結会計年度 (2021年8月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	52,107	64,881
1年内返済予定の長期借入金	959,301	928,982
未払費用	43,358	49,981
未払法人税等	5,226	15,938
未払消費税等	17,627	28,950
その他	96,623	108,485
流動負債合計	1,174,245	1,197,220
固定負債		
長期借入金	864,114	721,592
固定負債合計	864,114	721,592
負債合計	2,038,359	1,918,812
純資産の部		
株主資本		
資本金	451,459	451,459
資本剰余金	422,578	422,578
利益剰余金	835,529	842,715
自己株式	△514,204	△514,204
株主資本合計	1,195,363	1,202,549
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△5,507	△1,576
その他の包括利益累計額合計	△5,507	△1,576
純資産合計	1,189,856	1,200,972
負債純資産合計	3,228,215	3,119,784

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)	当連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)
売上高	1,798,549	1,929,357
売上原価	961,732	1,039,715
売上総利益	836,816	889,642
販売費及び一般管理費	846,397	842,049
営業利益又は営業損失(△)	△9,580	47,592
営業外収益		
受取利息	118	37
補助金収入	—	4,000
その他	3,901	833
営業外収益合計	4,019	4,871
営業外費用		
支払利息	11,698	13,083
その他	1,303	553
営業外費用合計	13,002	13,636
経常利益又は経常損失(△)	△18,563	38,826
特別損失		
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	—	3,323
減損損失	77,992	34,107
事業整理損	24,105	—
特別損失合計	102,098	37,431
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△120,661	1,395
法人税、住民税及び事業税	1,761	11,876
法人税等還付税額	△13,094	—
法人税等調整額	42,414	△17,667
法人税等合計	31,081	△5,790
当期純利益又は当期純損失(△)	△151,742	7,185
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△2,270	—
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△149,471	7,185

連結包括利益計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)	当連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)
当期純利益又は当期純損失 (△)	△151,742	7,185
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,470	3,930
その他の包括利益合計	1,470	3,930
包括利益	△150,272	11,116
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△148,099	11,116
非支配株主に係る包括利益	△2,173	—

(3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		非支配株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	451,459	429,168	985,001	△514,204	1,351,424	△6,564	△6,564	3,159	1,348,019
当期変動額									
親会社株主に帰属する 当期純利益			△149,471		△149,471				△149,471
連結子会社株式の取得による 持分の増減		△6,589			△6,589				△6,589
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						1,056	1,056	△3,159	△2,102
当期変動額合計	—	△6,589	△149,471	—	△156,061	1,056	1,056	△3,159	△158,163
当期末残高	451,459	422,578	835,529	△514,204	1,195,363	△5,507	△5,507	—	1,189,856

当連結会計年度(自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)

(単位:千円)

	株主資本					その他の包括利益累計額		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	451,459	422,578	835,529	△514,204	1,195,363	△5,507	△5,507	1,189,856
当期変動額								
親会社株主に帰属する 当期純利益			7,185		7,185			7,185
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						3,930	3,930	3,930
当期変動額合計	—	—	7,185	—	7,185	3,930	3,930	11,116
当期末残高	451,459	422,578	842,715	△514,204	1,202,549	△1,576	△1,576	1,200,972

(4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)	当連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△120,661	1,395
減価償却費	81,482	113,989
のれん償却額	8,403	—
減損損失	77,992	34,107
事業整理損	24,105	—
在外子会社清算に伴う為替換算調整勘定取崩損	—	3,323
補助金収入	—	△4,000
受取利息	△118	△37
支払利息	11,698	13,083
売上債権の増減額(△は増加)	14,312	△74,209
たな卸資産の増減額(△は増加)	2,907	△359
仕入債務の増減額(△は減少)	△38,095	12,774
未払金の増減額(△は減少)	26,185	6,017
未払費用の増減額(△は減少)	△8,111	6,674
未払消費税等の増減額(△は減少)	17,237	18,731
その他	△2,689	10,667
小計	94,648	142,158
利息及び配当金の受取額	118	37
利息の支払額	△12,234	△12,864
事業整理損失の支払額	△14,980	—
補助金収入の受取額	—	4,000
法人税等の支払額	△11,293	△2,887
法人税等の還付額	—	18,096
営業活動によるキャッシュ・フロー	56,258	148,540
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△24,934	△1,815
無形固定資産の取得による支出	△141,813	△66,845
その他	161	100
投資活動によるキャッシュ・フロー	△166,586	△68,561
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	1,200,000	900,000
長期借入金の返済による支出	△884,581	△1,072,841
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△7,891	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	307,527	△172,841
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,429	323
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	198,628	△92,538
現金及び現金同等物の期首残高	2,302,339	2,500,968
現金及び現金同等物の期末残高	2,500,968	2,408,430

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

(1) 報告セグメントの決定方法

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

(2) 各セグメントに属する製品及びサービスの種類

「デジタルコンテンツ事業」は、自社Webサイト、ISP、各移動体通信事業者及びApple や Google 等のプラットフォーム向けに占い鑑定や女性に向けた記事コンテンツを企画・制作・配信する、1対N向けのサービス事業を、「One to One事業」は、ユーザーと占い師を電話等で直接結び付ける、双方向のやり取りを特徴とした1対1向けのサービス事業を、「XR/SNS事業」は、リアルタイム実写立体動画撮影技術を活用したサービスの企画・制作並びに多機能コミュニケーションプラットフォームの開発・運営及びサービス支援を行っております。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より「ゲーム事業」について量的な重要性が減少したため「その他」として記載する方法に変更しております。

また、従来、ユーザーと占い師を電話等で直接結び付ける、双方向のやり取りを特徴としたOne to Oneサービスを占いコンテンツ事業、メディア事業の一部として区分してきましたが、One to One事業の戦略上の重要性が増したため「One to One事業」として区分する方法に変更しております。

第3四半期連結会計期間より、「占いコンテンツ事業」及び「メディア事業」については、組織変更を行い運用やプロモーションの一体化を進めており、事業の類似性が高まったため、当該セグメントを集約することで当社グループのセグメントをより適切に表示できると判断し、従来の「占いコンテンツ事業」「メディア事業」を集約し、「デジタルコンテンツ事業」といたしました。上記変更により、当社グループの報告セグメントを、「デジタルコンテンツ事業」「One to One事業」「XR/SNS事業」の3セグメントとしております。

また、従来「XR事業」としていた報告セグメントの名称を「XR/SNS事業」に変更しております。この変更はセグメント名称の変更であり、セグメント情報に与える影響はありません。

なお、前連結会計年度のセグメント情報については変更後の区分により作成しており、かつ変更後の名称で記載しております。また「3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報」の前連結会計年度に記載しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。報告セグメントの利益は、営業損益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高または振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度(自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	デジタル コンテンツ 事業	One to One 事業	XR/SNS 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,110,159	621,969	40	1,732,169	66,380	1,798,549	—	1,798,549
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,110,159	621,969	40	1,732,169	66,380	1,798,549	—	1,798,549
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	396,960	63,006	△38,641	421,325	△53,175	368,149	△377,730	△9,580
セグメント資産	258,299	112,284	98,564	469,147	68,875	538,023	2,690,192	3,228,215
その他の項目								
減価償却費	13,134	15,152	27,366	55,653	21,349	77,002	4,479	81,482
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	47,440	1,015	68,114	116,570	44,924	161,495	2,469	163,965

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業、医療ツーリズム事業及び越境eコマース事業などの事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△377,730千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用の△377,730千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額2,690,192千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に本社及び管理部門に係る資産であります。

(3) 減価償却費の調整額4,479千円は、主に本社及び管理部門の資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、連結財務諸表の営業損失と調整を行っております。

当連結会計年度(自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額 (注) 3
	デジタル コンテンツ 事業	One to One 事業	XR/SNS 事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,166,878	728,358	22,411	1,917,647	11,709	1,929,357	—	1,929,357
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	1,166,878	728,358	22,411	1,917,647	11,709	1,929,357	—	1,929,357
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	388,852	89,316	△92,453	385,715	△46,224	339,490	△291,898	47,592
セグメント資産	284,392	153,078	150,056	587,528	85,175	672,703	2,447,081	3,119,784
その他の項目								
減価償却費	17,240	11,774	71,737	100,752	4,891	105,644	8,345	113,989
有形固定資産 及び無形固定 資産の増加額	4,567	771	63,576	68,916	—	68,916	4,974	73,890

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ゲーム事業、医療ツーリズム事業及び越境eコマースなどの事業を含んでおります。

2. 調整額は、以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△291,898千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用の△291,898千円が含まれております。全社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

(2) セグメント資産の調整額2,447,081千円は、主に各報告セグメントに配分していない全社資産であります。全社資産は、主に当社及び管理部門に係る資産であります。

(3) 減価償却費の調整額8,345千円は、主に当社及び管理部門の資産に係る減価償却費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)		当連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)	
1株当たり純資産額	118円05銭	1株当たり純資産額	119円16銭
1株当たり当期純損失(△)	△14円83銭	1株当たり当期純利益	0円71銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年9月1日 至 2020年8月31日)	当連結会計年度 (自 2020年9月1日 至 2021年8月31日)
1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失		
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△149,471	7,185
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)(千円)	△149,471	7,185
期中平均株式数(株)	10,078,923	10,078,923

(重要な後発事象)

該当事項はありません。